



第3回企画展「和子夫人の生涯」

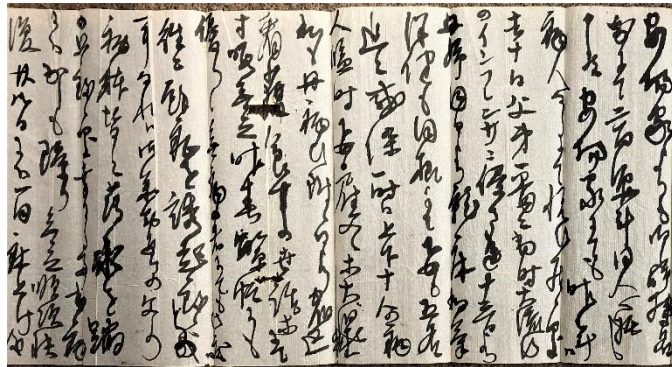
～新平を支え続けた“やまとなでしこ”～

併催：シリーズ後藤新平人脈考②「永田秀次郎」

- ・慶応2（1866）年3月25日：安場保和・露子夫妻の次女として熊本に生まれる。
- ・明治16（1883）年9月：18歳の時、後藤新平（27歳）と結婚。
- ・明治26（1893）年9月：一蔵（長男）出産。
- ・明治28（1895）年7月：愛子（長女）出産。
- ・明治40（1907）年5月：新渡戸夫人と外遊、翌年帰国。
- ・大正7（1918）年4月8日：永眠。享年53歳。

【開催期間】
R2.1.10～3.8

和子夫人からドイツ留学中の新平への手紙



安場家でも昨年は病人もなく悦んでおりましたが、去る十日、父が一番に大流行のインフルエンザに罹り、十三日には、母と姉が寝込み、和気と保健も同様で、下女も五名が次々に感染して、一時は合わせて十人が病人で、臨時の下女を雇い入れる等..

学芸調査員による企画展示説明会



1月11日（日）、今回の企画担当者である佐々木菖子学芸調査員による企画展示説明会を開催しました。総勢11名。これまで、あまりスポットを当ててこなかった和子夫人を取り上げたこともあり、通常の企画展よりも、女性の方々の参加が目立ちました。

台湾婦人慈善会の会長（最前列左から4人目が和子）（最後列左から5人目が新平）



明治37（1904）年10月21日、22日の夜、台湾婦人慈善会のもととなった台湾慈善音楽会が開催された。その時の寄付金を基金として慈善会が創立された。（同年10月25日）台湾婦人慈善会の活動は、明治38年と明治39年に音楽会を開催、各種社会事業・教育事業への寄附・補助、労働者住宅の建築、「平和街」の建設。（現在の高雄市内に建てられた貧民救助のための14棟240戸の住宅街で、新平と和子の名前から一字ずつって命名された）

婦人用自転車の領収書 (M36. 9. 24)

一金 144 円 (当時大卒初任給約 30 円)

台湾当時、新平夫妻は早朝の散歩を日課としていたが、和子は当時流行していた自転車を新平に奨めた。流行していたとはいっても台湾ではあまり利用している人もなく、ハイカラなものだった。夫婦は毎朝、台湾服を着て、官邸から約4kmの距離を自転車を並べて回っていたという。始め、自転車に乗れなかった和子は、毎晩12時から、秘書官や女中らみんなが寝静まった頃に一人こっそりと官邸の庭で練習していたらしい。



イメージ (HPより)
明治30年代の女学生

